

2022（令和4）年度 前期 京都大学 入試問題 理系 第1問 解答例

*1行は約25文字（+句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

問一

現代日本の若い世代が自国の古典芸術には明らかに無知であり、西洋の古典芸術なら知っているという残酷な現実を前にすると、もはや前者を伝統とは言えないということ。

- *「現実が残酷」であることの具体例。そこはきちんと解答化すること。ただし、後の筆者の主張からも明らかのように、それを「嘆いたって、はじまらない～むしろけっこうだ」とあるので、通俗的な「危機意識」などを書かないようにしよう。
- *「どっちがこれからの世代に受けつがれる伝統だか分からなくなってきました」というのは、よくあるもののたとえ（比喻）。「どっちが親でどっちが子どもか分からない」などの表現も「とうてい親と呼ぶに値しない」の意で、文字通りに受け取る人はいない。実際、「ヨーロッパの古典芸術」を「日本の伝統」として「継承」することは不可能である。

問二

古典芸術の喪失に対して、失われたものの大きさに対する悔いと空虚の念を創作の活力へと逆転させ、失われたもの以上に優れた芸術を自分が創造し、それを伝統継承にまで高めるといふ、図々しいほどの気概が望ましいということ。

- *二段落先の「（そのような）不逞な気魄（にこそ、伝統継承の直流がある）」にまで言及したい。「不逞」は、「従順でない、勝手にけしからぬ、ずうずうしい」などの意。それくらいでないといけない、それがかえって望ましい、という逆説を解答化する。

問三

日本の誤った伝統意識を覆すために、純粋な視点で古典芸術に接しようと用心していた筆者が、うかつにも伝統的価値に対して神妙になってしまい、何とも危うく感じたから。

- *「どうもアブナイ」と「筆者が言う」理由であるから、解答の結びの表現は「何とも危うく感じたから。」といった、心理的表現への置換が必要である。もちろん単なる置換だけでは「理由」説明として不十分なので、根本的な理由をその前に書いておくこと。
- *筆者は、「伝統主義者」（ならびに、それに追随する一般人）の「まちがった伝統意識をくつがえすため」という目的を持つので、くだんの「イシだけだ」「なんだ、タカイ」という「文化的に根こぎにされた人間」と同程度の意識にはない。つまり、「裸の王様を見た子ども」とは違う。したがって、筆者自身の意識を「単純素朴な価値判断」とするのは誤りである。これは筆者の「アブナイ」ところを救ってくれただけである。

問四

伝統主義者が賛美する古典芸術には事欠かないが、その権威や伝統的価値を打破した近代の人間文化を生きる芸術家は、無価値と感じ、興味が持てない。その思いを逆に創作する力へと転じ、とらわれない新しい視点で伝統を直視し、より優れた芸術を制作し、伝統を継承する気概をもつ人間。

- *傍線部自体の「美に絶望し退屈している者」という解答要素は記述できているであろうか。ここは小林秀雄の具体的なエピソードをどう一般化するかということでもある。
- *ここでも、「イシだけだ」「なんだ、タカイ」という「文化的に根こぎにされてしまった人間」たちの「単純素朴な価値判断」と「ほんとうの芸術家」とを同列視しないように。